

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>

● このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています●

商業地・銀座のなかでも、それぞれの地域によって、成り立ちや性格があります。そういった地域ごとの歴史や個性を知ることによって、まちづくりの将来像がよりはっきりと見えてくるのではないのでしょうか？

慶應義塾大学の学生さんたちの調査研究の発表を聞きながら、旧木挽町地域の将来像について、考えてみたいと思います。



エリアごとの個性を生かしたまちづくりとは？

銀座は東西に約1キロ、南北に約1.2キロという地域ですが、その中でもエリアごとに特徴があります。ことに、かつて木挽町と呼ばれた東側の地域は、街の成り立ちも歴史も、昭和通り以西の銀座とは性格を異にしています。住民も多く、古くからのコミュニティがあり、京橋四之部町会として独自の活発な町会活動を行っている地域です。

都市史研究者の岡本哲志さんによれば、木挽町の原風景は、砂州と浅瀬の海。江戸の初期、砂州であった部分には町人地、海であった部分には武家地ができていったそうです。そこに木挽職人、御用絵師などが住まい、芝居小屋や料亭ができてゆき、街の性格をつくりだしていったのです。木挽町は、関東大震災後に昭和通りがつけられるまで、晴海通り、みゆき通りなど銀座の7本の横丁と結びつき、銀座、そして日比谷や丸の内武家地（後に官庁街）と深くかかわりを持ち続けてきました。

昭和初期には、晴海で開催されるはずであった幻の万国博のために拡張整備された晴海通りと、昭和通りが街の成り立ちと関係なく、木挽町を4つのエリアに分割してしまいました。それ

以来、街全体の個性が見えにくくなったとはいえ、歌舞伎座や新橋演舞場などの劇場文化、料亭文化の落ち着いた雰囲気が残っています。地区計画「銀座ルール」においても、西側の銀座とは違う位置づけがなされています。

一方、オフィスビルとマンションが多く建てられるようになり、ビジネス街であり住宅地でもあるという二面性をもっています。加えて、歌舞伎座建て替えをはじめ、大規模開発の計画も浮上しています。このような東銀座地区（木挽町地区）はどのような街づくりをしていけばよいのでしょうか？

昭和通りと晴海通りの性格を今後どう考えるかも視野に入れていくことが重要であると思われます。その上で、歴史的に培ってきた木挽町の特性をどのようにに継承し、新しい場をどのようにに生みだしていけるのかの議論が具体化できるのではないのでしょうか。

慶應義塾大学小林哲志研究室の学生さんたちが、この地域を調査研究してくださいました。当日は、学生さんたちの発表とともに、銀座の歴史を研究している岡本哲志さんにもお話を伺います。ぜひぜひご参加ください。

∴ 銀座街づくり会議シンポジウム ∴

慶應義塾大学 銀座研究

旧木挽町の再発見 東銀座の将来像を考える — 学生たちの提案

2008年9月25日(木) 13時半～15時半 *13時開場 銀座会議室 2階(中央区銀座3-7-10)

研究発表

「東銀座のリ・デザイン — 旧木挽町再発見」

慶應義塾大学小林研究室 + 小林哲人(慶應義塾大学大学院准教授 小林・楨デザインワークショップ代表)

報告

「旧木挽町とはどういう場所か 街の成り立ちとその性格」

岡本哲志(岡本哲志都市建築研究所)